

令和 7 年 3 月 1 5 日
府中市立府中第四中学校
校 長 重山 直毅

令和 6 年度 府中市立府中第四中学校学校経営報告書

1 今年度の取組と自己評価

制限なく教育活動を行うことができる中、単にコロナ前に戻すのではなく、真に必要な教育活動を模索してきた。引き続き、熱中症予防への対応、インフルエンザなどへの対策も必要であった。インフルエンザについては、学級閉鎖を余儀なくされるなど、今後も予防は徹底していかなければならない。授業参観も通常通り実施し、多くの保護者に参観していただくことができた。また、合唱部の活躍、卓球部の関東・全国大会出場、各種コンクールでの入賞等、生徒が様々な教育活動等を通して成長していく姿を見ることができた。市制施行 70 周年行事への参加、卒業生の小室哲哉さんを招いた合唱集会など本校ならではの取組も行うことができた。

(1) 自己指導能力を育む生活指導の充実

生徒の自己指導能力を育成するために、①教員と生徒、生徒同士の共感的信頼関係を構築する ②生徒の良さを認め自己存在感を育成する ③学校行事や生徒会活動等のあらゆる場面で自己決定の場を設定していく、ことを推進してきた。

また、不登校対策委員会の充実を図るとともに、教育相談部、スクールカウンセラーとの連携を踏まえた組織的な対応を推進した。みらい、教育センター、けやき教室などの関係機関やフリースクールなどの関係機関との円滑な連携を行ってきた。さらにサポートルームにおいて、生徒一人一人の状況に応じたきめ細やかな対応を進めることができた。

(2) 主体的な学習の推進

主体的・対話的で深い学びを推進するために、生徒の主体的な学習活動を充実することを最重点として授業改善を進めてきた。若手教員を中心とした研究授業を中心とした授業改善にも努めた。

生徒一人一人に配布されたタブレットパソコンの授業での活用をさらに推進するとともに、家庭学習での活用も模索してきた。e-libraryの活用などを通して、さらに個に応じた学習のあり方を検討・実践していく。

(3) 円滑な学校運営の推進

- ① 経営支援部を中心に学校運営の活性化を図るとともに、教員の働き方改革を進めてきた。企画会・職員会のペーパーレス化、各種便りのメール等での配信により、印刷にかかる時間の縮減などを進めることができた。また、引き続き紙ごみを大幅に削減することができている。
- ② スクールコミュニティ協議会を3回開催し、授業を見ていただく機会を設定することができ、学力・体力向上や生徒の心の育成など、学校の抱える諸課題への対応について理解や協力を得ながら学校運営機能の向上を図っていくことができた。
- ③ 本宿小学校・府中第三小学校との授業参観・分科会ごとのテーマを基に協議を実施することが

できた。本校の音楽科教員（指導教諭）が出向いて合唱指導を行うことができた。

- ④ 学校経営支援員及び副校長校務改善支援員を活用し、生徒の学力向上や個別の支援の充実、副校長の業務の軽減を計画的かつ適切に実施することができた。

（４）特別支援教育の推進

一人一人の生徒を大切にする観点から、全校で特別支援教育の理解を深め、個別のニーズに対応し効果的な支援を実行できる組織を構築するため、以下の視点に重点を置いて指導してきた。

- ① インクルーシブ教育の理念、合理的配慮の正しい認識、通常の学級における特別支援教育への理解を深めることができた。
- ② 必要な生徒に対する学校生活支援シートや個別指導計画を作成し、教職員間で共有するとともに活用を図る校内体制を確立している。
- ③ 特別支援学級（知的固定）と通常の学級との交流及び共同学習を推進した。
- ④ 授業において、めあての提示や見通しをもたせた学習活動の推進、教室環境における刺激量を調整するための教室前方の整理、板書の構造化に特化してその推進を図っている。
- ⑤ 特別支援教室を活用し、通常の学級と特別支援教室の教員間の連携を重視するとともに生徒が快適に学校生活を送ることができるよう支援の充実を図る。

10組と他の学級における交流及び共同学習については、給食交流を日常的に行うことや一部の生徒が日常的に授業に参加するなど大きな前進も見られた。今後、学校全体としての交流及び共同学習を進めていく。

2 次年度以降の課題と対応策

特別支援学級において個に応じた支援を一層充実させるとともに、通常の学級との交流及び共同学習を学校全体で推進する。

地域からの中学生へのボランティアや演奏依頼も増え、多くの生徒が参加してきた。これまで府中第四中学校を支えていただいていた地域の方との関係をスクールコミュニティ協議会や青少年対策第四地区委員会をはじめとした地域の方々との協議を通して再構築していく。